

各教科等における 「令和7年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、1人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿を実現します。

また、多様で複雑な現代の社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要となります。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等においてその育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせず情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



目指す子供の姿

- 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けている。
- 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫しようとする、実践的な態度を身に付けている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①実践的・体験的な活動の充実

◇実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して、習得した知識及び技能を、生活の場で生かせるよう、児童の実態を踏まえた具体的な学習活動を設定する。

②問題解決的な学習の充実

◇児童が、生活を見つめ、問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考える学習を通して、課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わうことができる学習過程を計画する。

◇課題解決の見通しをもち、他者と協働しながら解決方法を考え、根拠や理由を明確にして分かりやすく説明したり発表したりする学習場面を設定する。

③ICTの効果的な活用

◇児童の思考の過程や結果を可視化する、大勢の考えを瞬時に共有化する、情報を収集・整理し編集することを繰り返し行い試行錯誤するなどの学習場面において、ICTを効果的に活用する。